



ガウディを訪ねる旅

建築家は旅が好きだ。という人がいる。私も御多分に漏れずその傾向にある。いろいろな仲間でする機会を作る。国内は勿論、海外に行くこともある。

建築士会理事の忘年会の席で、海外の建築を見る旅をしたいねという会話をきっかけに四年がかりで計画し、昨年十一月建築士会有志によるスペイン旅行が実現できた。誰でも一度は行ってみたい、だつ、スペイン・ガウディを訪ねる旅に決めた。若い会員にも参加出来るよう安い料金の設定が出来たこともあり二十名という限定をした中に多くの若者が参加してくれた。初めての海外、二度目のスペイン、新婚旅行を兼ねた若夫婦等々。関空、ヘルシンキと乗継、深夜マドリッドにいた。私は十年前にスペインを旅し今回二度目になる。前回通ったコースを奇しくも再び通ることになったが、期待感でいっぱいだった。サグラタファミリヤが十年前とどう変わっているのか、この目で見る事ができる。ヨーロッパの街はどの国でも

# 空間の広がり と 造形に感嘆

そうだが、古い物を大事にし近代建築とうまくか

かわり合せて街を作る、その空間も楽しめたかった。

マドリッド、トレド、コルドバと廻り、古都グラナダ、あの有名なアルハンブラ宮殿がある街。これ

はぜひ皆に見せておきたかった建物のひとつである。その美しさで

人々を魅了し、地上の楽園と評される城。天人花のパティオ、残念ながら獅子のパティオは改修工事中であったが、国王の夏の離宮だったヘネリフェのアセキアの

パティオ。できれば花のある季節に訪ねてもらいたい城。バルセロナ、今回の旅の最大の目的地、ガウディの街。ゲエル公園、カサ・ミラ、カサ・パトリヨ、サグラタファミリヤと一連の建築を見

る。サグラタファミリヤは沖縄出発前、ローマ法王のミサが行われたと報道されたが、出来上がった空間を見るのが待ち遠しかった。

十年前、その内部は外壁と廻廊(2階席)とそれを支える列柱はほぼ出来上がり、聖堂の屋根と柱はまだ一部がかかっている状態で足場でその全容も確認できなかったと覚えている。

出来上がった大聖堂の空間を支える列柱は森をイメージし、広がる樹木の幹と枝を表していると

され、キリスト教の儀式の場に相応しい、尊厳な空間の壮大な広がりとその造形に感嘆した。完成にあとどれだけの年月がかかるのだろうか。

もう一つの是非見たい建築、一九二八年のバルセロナ万博、ドイツ館として作られたミース・ファン・デル・ローエのバルセロナパピリオン。二〇世紀建築で最も美しい建築といわれているが、内



ミースのパピリオン(バルセロナ)

部には資料や展示物は全くなく、大理石の壁とガラスの建物、インテリアだけのシンプルな空間を公開している。われわれは多くの建築に触れ、古い町並みの空間を満喫した。ピカソ博物館、ピカソがかよったレストラン、4 Cats (クアトラ・ガッツ)でのコーヒー。グラシア通りのオープンカフェでのビール。バルでのワイン。一人の旅もいいが、建築を語りながらの旅も格別なものがあり面白い。次回は来年、近代建築の三大巨匠の一人といわれるフランク・ロイド・ライトをみんな訪ねてみたいがどうだろうか。

(※掲載写真は著者提供)



サグラダファミリヤ (バルセロナ)